



当世ビール事情

culturepot

当世ビール事情

とあるスーパーのお酒売り場で、老舗メーカーのビール達が最近のビール事情について、自らのアルコールに酔ってくだをまいていた。

Aビール「最近、俺達の売り場スペースどんどん減らされてないか？」

Kビール「確かにな。不況だから、発泡酒とか第三のビールとか、安いビールもどきが人気だもんな」

Aビール「これじゃ第三のビールじゃなくて、第三の刺客だぜ」

Kビール「昔は良かったなあ。俺達をサラリーマンの連中が、毎日仕事帰りにおいしそうに飲んでくれてさ。一杯のビールで皆その日の疲れがふっとんだ、なんて言ってくれて」

Aビール「あの頃は俺達瓶に入れられてたよな。覚えてるか？」

Kビール「もちろん覚えているさ。瓶の時の方がなんかしっくりきたよなあ。肌触りもよくてさ。なんかアルミに入れられていると、軽くあつかわれているようで嫌だよ」

Aビール「瓶と言えば、最近ワイン好きが増えてるだろ？日本人なのにワインって柄かっているの」

Kビール「そうだな。ただ、俺達もヨーロッパから来てるから人のことは言えないけどな。日本酒の連中には最初は相当煙たがられたよ」

Aビール「そうかもしれないけど、戦後の高度経済成長期の日本人の心を支えていたのは間違いなく俺達だぜ。バブルの時代になってワインなんてミーハーなものを飲むから日本は駄目になったんだよ」

Kビール「ワインもさることながら、最近では酒造業界も韓流ブームだか知らないけど、マッコリとかも流行っているらしいよ」

Aビール「あれは許せないね。何が韓流だよ。マッコリを飲むんだったら、焼酎や泡盛を応援するぜ」

Kビール「それもそうだな。でも俺達の最大の敵は酒じゃないよ」

Aビール「なんだよ。今、酒の話をしてるんじゃないのかよ。」

Kビール「ノンアルコールビールの人気をしらないの？」

Aビール「あいつらか。発泡酒なり、第三のビールだったら、まだ俺達のかわりを安くあげているんだなって許せるけど、ノンアルコールになるとただの炭酸だからな」

Kビール「最大の敵は身内にありさ。身内のふりして酒じゃないんだ」

Aビール「けっ！酒なしで世の中やっていけるのかね？」

Kビール「若者は大丈夫みたいだよ。タバコもそう言われた頃があったけど、今じゃ完全に少数派で悪者扱いだからな・・・。」

Aビール「ああ、あいつらとは長い付き合いだったのにな。あそこまで邪魔者扱いされなくてももいいと思うよな。可哀想だぜ。今でもたまに一緒になるけど、すごく寂しそうだし、肩身狭そうにしているよ」

Kビール「いつ俺達がそうなるともかぎらんからな。それを考えたら、麦芽仲間ということで、ノンアルコールビールとも仲良くやった方がいいかもしれないね・・・」

Aビール「若者にこびるとは情けない親父になったな俺達も」

Kビール「まだ、エ〇スやモ〇ツみたいな高級路線もあるさ」

ビールA「そうだな。とりあえず俺達の未来に」

ビールAK「乾杯！」

当世ビール事情

<http://p.booklog.jp/book/32779>

著者 : culturepot

著者プロフィール : <http://p.booklog.jp/users/culturepot/profile>

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/32779>

ブックログのpapier本棚へ入れる

<http://booklog.jp/puboo/book/32779>

電子書籍プラットフォーム : ブックログのpapier (<http://p.booklog.jp/>)

運営会社 : 株式会社paperboy&co.